

# 新政会だより

Vol.6

平成20年8月25日  
発行



ネスバスにて（東京・表参道）

右から 所属委員会

- 平野久樹 総務財政・地域情報化
- 野本信行 建設産業・港湾交通
- 伊藤文博 文教民生・地域情報化
- 畑野久一 建設産業・港湾交通
- 斉藤伸一 文教民生・港湾交通

## 新政会

基本理念

友愛・公平・公正・効率を旨とする

スタンス

保守・中道路線

米田市政を是々非々で支える

## ご挨拶

平成17年3月19日、旧一市二町の合併により誕生した新糸魚川市も早や3年半を経過しようとしています。

新市スタートに伴い、新市長・議員が5万市民の期待を背に選出され、幅広い分野に於いて活動していますが、4年任期の仕上げの年を迎えています。

当市は合併によるスケールメリットを追求する一方、住民サービスの充実に心掛けていますが、大都市と地方の格差が拡大し、財政再建のシワ寄せが地方自治体に押し寄せる中、医療・年金・介護等の社会保障制度改正と生活必需品の相次ぐ値上がりから市民生活の先行き不安が高まっています。

この上、当市独自の課題として

- ① 新幹線開業に向けての街づくりの方向付け
  - ② 地域医療と高齢者福祉水準の確保
  - ③ 若者定着を図る地域産業の育成と振興策
  - ④ 中山間地域と農業・農地を守る具体的施策
  - ⑤ 浦本地区の下水道工事に伴う国道8号の規制緩和策
  - ⑥ 部長制導入の効果と課題追求等、政策の適切な選択と検証が求められると思います。
- 私たち「新政会」は着実な新市の基盤づくりと市民生活の不安解消に努める一方、当市独自の課題に対しても行政に積極的に政策提言を行い、議会としてのチェック機能を高めていきますので、市民各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

新政会 畑野 久一

## 「新政会勉強会」

糸魚川市では、今年度から企画財政課にジオパーク推進室を設置し、日本最初の世界ジオパーク認定を目指した特別展の開催や、ジオパークガイドの養成に着手しました。

6月22日からドイツで開催されたユネスコ国際ジオパーク会議に市長も参加し、日本ジオパーク連絡協議会長として当市の地質遺産をはじめ、日本国内の世界ジオパーク候補地の価値について、うったえてきたそうです。

新政会では、ジオパークについて積極的に勉強し、日本最初の認定を推進していくつもりです。6月19日に、宮島学芸員の説明による勉強会を実施しました。

世界ジオパークの目的は、優れた地質遺産を

- ① 保護して後世に伝えること
  - ② 教育と研究に活用すること
  - ③ ジオツーリズム（地質見学旅行）による地域振興に活用すること
- の3点です。

世界ジオパーク認定を地域おこしの起爆剤として活かしていくことが、糸魚川市の最大の目的となります。

関連して7月には、世界遺産に認定された世界ジオパークにも登録を目指している「石見银山」を視察し、今後の糸魚川市の取り組みの参考にするべく勉強を重ねて参りました。



## 新政会視察研修

### 「事業仕分け」作業で行財政運営の効率化について

滋賀県高島市

■訪問日 7月22日

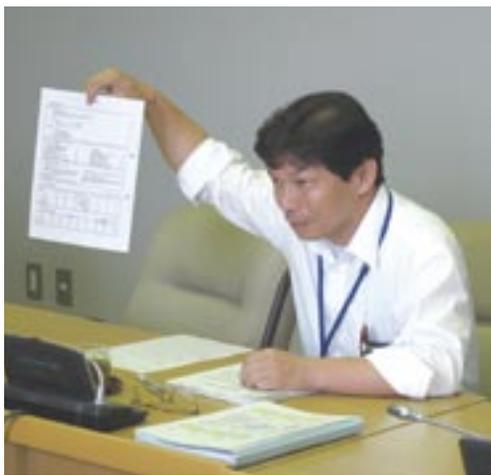
■訪問先 滋賀県高島市

●人口……………約55,000人

(平成17年6町村で合併)

●面積……………約511km<sup>2</sup>

●予算規模……………約270億円



熱心に説明する高島市担当者



#### ◆研修目的

「事業仕分け」作業で行財政運営の効率化に実績を上げている先例市の視察。

#### ◆取組内容

高島市は平成17年に六町村が合併しましたが、逼迫した財政状況と旧町村で互いに重複する事業を継続しているなどから、根本的な事業見直しが必要と判断し、他の自治体で「事業仕分け」の実績がある「政策シンクタンク」及び他の先例自治体の財政担当者、経験者を招き、「事業仕分け」作業を3カ年実施し、大きな成果を上げている。

その具体的作業は、多くの市民が見守る中、コーディネーターを含む六人の市民評価者に対し、各事業の担当職員3〜4人が事業内容について説明し、それを基に市民評価者と市職員が質疑応答と議論を繰り返して、市民評価者とその事業について「廃止」、「民間委託」、「改善して継続」、「継続」の四つに仕分け、多数決で総括を行う。

平成17年度から毎年、一般会計予算の事業費1千万円以上の事業全てを対象として（18年度からは前年仕分けした事業は除く）仕分け作業を行い、

■17年度（18年度予算に反映）

115件約22億円弱の削減

■18年度（19年度予算に反映）

22件約1億円強の削減

■19年度（20年度予算に反映）

19件約1億円弱の削減

などを実現しています。

#### ◆感想

資料に基づいた確かな説明を受け、「事業仕分け作業」を実施している数市で具体的な成果をあげていることを改めて実感すると共に、当糸魚川市も本格的に行財政運営の見直しを真剣に行う必要性を痛感しました。

### 知音都市交流の推進について

島根県浜田市

■訪問日 7月23日

■訪問先 島根県浜田市

●人口……………約63,000人

(平成17年4町村で合併)

●面積……………約689km<sup>2</sup>

●予算規模……………約321億円

#### ◆研修目的

知音都市交流の活性化と地域出身の著名人の顕彰による地域振興の可能性を探る。

#### ◆取組内容

大正初期に島村抱月が設立した芸術座が、全国公演した復活（トルストイ原作）の劇中歌「カチューシャの唄」が縁で、4市（島村抱月＝島根県浜田市、松井須磨子＝長野県長野市、中山晋平＝長野県中野市、相馬御風＝新潟県糸魚川市）において、平成2年から市民団体や行政などによる人的交流をはじめとした様々な分野で交流が毎年行われております。

当糸魚川市は、平成20年5月16日に「カチューシャの唄」知音都市交流糸魚川市民の会を解散し、新たに都市交流協会として活動の発展を押し進める事としております。

知音都市交流も平成21年には、交流20周年となり、記念事業を浜田市で開催されることになっており、こ



浜田市議の皆さんと

れまでの交流を基盤に、交流20周年を契機として、今後の交流事業推進を展望した次のステップとして、プロジェクト事業などの明確化を図り、新たなシステムの構築を目指すこととしております。

#### ◆感想

浜田市は平成17年に一市三町一村が新設合併を行ったことから、金城町の交流活動から浜田市の交流へと移ったが、まだ市全体へ周知が行き届かない面があります。交流20周年記念事業を通じて知音都市交流の活性化により地域活力の創出を行いたいと市議会議長が話していました。

糸魚川市も同様な面があり、相馬御風先生を通じたまちづくりを推進すべきと感じました。



浜田市直営の神楽衣装製作工房（浜田市は「神楽」も盛んです）

#### ■編集後記

一市二町の合併によりスタートした新糸魚川市も4年目に入り、巷では合併前と比較する意見も聞かれるところですが、取り巻く国の状況や当地域の将来像を考えると、痛みを極力抑えながら適正な選択を遂行することが重要と思われまます。

糸魚川市では日本最初の世界ジオパーク認定を目指していますが、糸魚川市を日本のみならず世界に発信し、交流人口の増加で地域に根ざした拠点づくりが実現できれば、将来像の予測に変化の兆しを感じられるのではないのでしょうか。市民と一体となった盛り上がりを目指します。

編集子